

特集 未踏ユースから育ったタレントたち

7

未踏ユースを通じてステップアップ

尾藤 正人 (株) スングーラ

2003年度未踏ユース採択。ウノウ (株) (現 ZyngaJapan) の CTO を 4 年半務めた後、退職し、独立。(株) スングーラ代表取締役社長。masato@bz2.jp

私は 2003 年度未踏ユースに採択され開発を行った。未踏ユースでは複数の FTP サーバを自動的に選択する FTP プロキシサーバの開発を行った。多くのフリーソフトウェアは FTP のミラーサーバで配布されているが、どのミラーサーバを選んでいいのかが判断するのが難しい。この問題を解決しようと思い、未踏ユースに提案させていただいた。

未踏ユースの開発が終わった後、私はサンフランシスコに行った。大言壮語のようなものはなく、単に行ってみたかったというのが理由であった。いわば人生の夏休みのようなものである。ところが何気なしに行ったサンフランシスコでの出会いが私の人生を大きく変えることとなった。

サンフランシスコでの出会い

サンフランシスコの語学学校で山田進太郎氏と出会った。氏はウノウ (現 Zynga Japan) という小さい会社の代表をしていた。彼に未踏ユースに採択されていた話をする、それだけで何か納得したようだった。IT ベンチャーを経営する人ならエンジニアの技術力が重要なのは誰でも知っている。しかしながら自分がどれくらいの技術力があるかを相手に端的に伝えるのは難しい。未踏ユースに採択されているという事実があるだけで、その過程を飛躍的に短くすることが可能なのだ。

山田氏と会う中で、彼が日本で写真共有サイトを作りたいという話をした。私はすぐに面白いアイデアだと感じ、いきなり作り始めた。ある程度骨格ができた途中で彼に見せると、すぐに一緒にやろうという話になった。思いついたら即行動、開発者ならとりあえず作れという精神も未踏ユースを通じて身につけたものである。かくして私は日本に帰り、ウノウの CTO に就任することになったのである。

ウノウ CTO として

日本に帰国してウノウに入ってから、写真共有サイト「フォト蔵」の開発に従事した。コンシューマ向け Web サービスの開発は初めての経験で、たくさんの失敗を重ねなが

ら開発を続けていった。最初、エンジニアは私 1 人で会社の規模も非常に小さかったが、徐々に社員も増え、30 名ほどの人数を抱えるまでに成長した。

ウノウに入る前の私は技術しか分からないただの開発者にすぎなかった。しかし、一会社の CTO となれば単に開発をするだけでなく経営にかかわることもやらなければならない。最初は何も分からずとまどうことが多かったが、徐々に IT ベンチャーの仕組みが分かるようになってきた。

未踏はリスクのない挑戦

私の未踏ユース採択後の経験を振り返ると、非常に運に恵まれていると感じる。と同時に運だけではない別の要素も大いにあると感じている。今までの経験は未踏ユースに採択されなければすべて起こり得なかった。未踏ユースに挑戦することを決めたのは私自身の決断だし、それまでに技術力を鍛えていなければ採択されることもなかった。そのことに関しては運とは言えない。運と実力の両方が必要なのである。

これは私の持論なのだが、運はすべての人に必ず一定量きていると思っている。運を生かすも殺すも本人の努力次第なのだ。チャンスが舞い込んできたときに、恐れずに飛び込めるかどうかの違いなのである。

未踏に応募するのには資格も何もいらない。不採用でも罰金を取られることもない。採択されれば開発費も出るし、世間にアピールできる機会も増える。何より同じ志を持った同年代の優秀な仲間にも出会える。まさにいいこと尽くめで、デメリットがないといっても過言ではない。先に運は一定量あると書いたが、運をつかむには能動的に行動しなければならない。リスクもなく得られる経験も多い未踏は、能動的に挑戦する場としてはうってつけなのである。これからも未踏から多くの優秀な開発者が巣立っていくことを切に願う。

(2011 年 9 月 15 日受付)